HCAP東京大学運営委員会12期

# HCAP東京カンファレンス2018報告書

HCAP TOKYO

# 本報告書について

本報告書は、HCAP(Harvard College in Asia Program) 東京大学運営委員会 12 期が企画・運営した「HCAP 東京カンファレンス 2018」について報告することを目的としたものである。

# 目次

02 本報告書について

02 目次

03 代表挨拶

04 HCAP とは

04 HCAP 東京カンファレンス 2018概要

05 HCAP 東京カンファレンス 2018 協賛・協力

06 プログラム詳細報告

ゆるスポーツ（アイスブレイク）【２日目（３月１１日）】

HCAPジェンダー企画【２日目（３月１１日）】

SDGs in Tokyo【３日目（３月１２日）】

高校生交流企画【４日目（３月１３日）】

東京観光【４日目（３月１３日）・６日目（３月１５日）】

田舎体験【５日目（３月１４日）】

貧困サイクル【６日目（３月１５日）】

広島と平和【７日目（３月１６日）】

京都観光【８日目（３月１７日）・９日目（３月１８日）】

18 HCAP 東京カンファレンス 2018 総括

19 HCAP 東京カンファレンス 2018 会計報告

# 代表挨拶

HCAP東京大学運営委員会12期は、2018年3月10日から18日にかけ、HCAP東京カンファレンス2018を開催いたしました。至らぬ点の多い私共が9日間に渡るカンファレンスを成功裏に終えることができましたのも、日頃から弊団体の活動にご理解とご協力をいただいております個人様・団体様のお力添えによるものと考えております。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

本年度のカンファレンスでは、各メンバーが、自分自身が心からやりたいと思えるプロジェクトを実行まで持っていくことを目標に掲げました。その実行に至る過程で、自分の興味関心に関して如何に他のメンバーや参加者などカンファレンスに関わる全ての人を巻き込めるかという題目にメンバー一同頭を悩ませ続けました。自分自身の興味分野を深く理解し直し、言語化し、それを相手の立場に立ちつつ伝えるという作業は労力を割く必要のある活動でありましたが、他に類を見ないほどに新鮮かつ学びにあふれたものであったと考えています。アプリケーション提出直前およびカンファレンス前にはそれぞれ1週間ほどの合宿を行い、各メンバーが他のメンバーと意見を交わし、協調や衝突を繰り返しつつ企画を作り上げていきました。そうした中で、団体メンバー間に相互理解やチームワークが生まれ、チームとして活動していく意味が徐々にメンバー間で浸透してきた気がします。結果的には、細部の詰めが甘く、完全に納得できていない部分も残ってしまったものの、カンファレンス参加者全員にとって刺激や学びの多い9日間を作り上げることができたと考えています。

HCAP12期の活動はこのカンファレンスにて終了しますが、各メンバーにはHCAP12期として過ごす中で獲得したものを周囲に還元する義務があると考えています。各人が1年弱の活動を通して得た学びや経験は確実に異なります。その中で一人一人が自分自身の学びを昇華させ、将来的に周囲に還元していくこと。このことを通してのみ、HCAP12期がチームとして、周囲のご支援をいただきつつ活動したことの意味が生まれるということを確信し、メンバー一同それに向かって邁進していく所存です。

末筆となってしまい誠に恐縮ではございますが、改めて、私共にこのような学び・刺激にあふれた一年間を過ごす機会を提供してくださった全ての関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ、筆を擱かせていただきます。

HCAP東京大学運営委員会12期代表
寺田彩人

# HCAPとは

HCAP(Harvard College in Asia Program)とは、ハーバード大学に本部を、アジアの 9 つの国と地域のトップレベル大学に支部を置く、学生主体の団体です。学生間でアメリカとアジア各国の架け橋となるような関係を構築するため、学術・文化・交流を軸に学生会議や交流活動を行う「カンファレンス」 を開催しております。

その日本支部である HCAP 東京大学運営委員会は、東京大学公認の学生団体です。「ハーバードカンファレンス」(毎年 1 月にハーバード大学にて行われるカンファレンス)への参加と「HCAP 東京カンファレンス」(毎年 3 月に日本にて行われるカンファレンス)の主催を二本柱として活動しております。

# HCAP 東京カンファレンス 2018 概要

| | |
|---|---|
| 主催 | HCAP東京大学運営委員会12期 |
| 日程 | 3月10日(土)〜3月18日(日) |
| 参加者 | 東京大学学生12名<br>ハーバード大学学生11名 |

# HCAP 東京カンファレンス 2018 協賛・協力

(敬称略)

**協賛**　株式会社ベネッセコーポレーションRoute H
株式会社ベネッセコーポレーション
Global Learning Center
東大駒場友の会
アメリカ大使館
株式会社プレジデント社

**後援**　アメリカ大使館
外務省

**顧問**　東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
准教授 松田恭幸

**企画協力**

「ゆるスポーツ（アイスブレイク）」企画
世界ゆるスポーツ協会　代表　澤田智洋

「HCAPジェンダー」企画
東大駒場友の会
東大発オンラインメディアUmeeT

「SDGs in Tokyo」企画
東京大学生産技術研究所　教授　野城智也

「高校生交流」企画
株式会社ベネッセコーポレーション
英語・グローバル事業開発部
グローバルラーニング課
Route H　責任者　尾澤章浩

「田舎体験」企画
富津市長　高橋恭一
富津市教育委員会教育長　岡根茂
相川梨沢地元推進者の方々
富津市立天神山小学校の教員の方々

「貧困サイクル」企画
アメリカ大使館広報部　石川乃佑里
アメリカセンターJAPAN ディレクター
Elliott Watts
首都大学東京　教授　阿部彩
株式会社ハッシャダイ　勝山恵一
株式会社ハッシャダイ　近藤真弥

「広島と平和」企画
広島県知事　湯崎英彦
広島県
平和のためのヒロシマ通訳者グループ(HIP)
代表　小倉桂子
株式会社ドリーム・アーツ
東京大学公共政策大学院　教授　鈴木寛
国際基督教大学教養学部 教授・
東京大学 名誉教授　川本隆史
広島市原爆被害者の会二世部会会長
中谷悦子

**その他ご協力**
東京大学渉外本部シニア・ディレクター
佐藤淳
東京大学渉外本部　係長　市村英孝

# プログラム詳細報告

## ゆるスポーツ（アイスブレイク）

【日時】

3月11日（日）10:00-13:00（1日目）

【場所】

代々木公園

【企画目的】

・「勝って嬉しい、負けて楽しい」という理念のもと誰もが楽しめるスポーツである、ゆるスポーツを通して親睦を深める

・東京オリンピックを機に日本から発信されてきている新たなスポーツ体系の一つを体験する

・ゆるスポーツが持つ特性上、スポーツを競技性以外の側面から再考する機会とする

【企画内容】

100cm走、スピードリフティング、ベビーバスケの3競技を曇天の代々木公園にて開催した。

第一種目の100cm走は100cmをいかに遅く走るかという競技で、周りから野次が飛ぶ中、体幹・バランスが要求される奇妙な競技であった。

第二種目はスピードリフティング。5本のバーが磁石でくっついたバーベルをチームで協力して持ち上げ、上下した回数を競い合う競技で、掛け声やチームメートを気遣う行動が自然と生まれる団体競技であった。第三種目のベビーバスケでは、ボールが赤ちゃんのように泣き出す通称ベビーバスケットボールが使われた。少しでも煩雑に扱うと泣き出してしまうベビーに一同笑いが止まらず、和気あいあいとした雰囲気のもと行われた。

【総括】

ただのアイスブレイクに留まらない何かユニークなことをやりたいという思いから始まったこの企画。結果として「ゆるスポーツ」という未知に遭遇できたのは良い経験であった。普通のスポーツでは決して有利にならない足の小ささが勝負の決め手となる100cm走や、スポーツを苦手とする原因の一つである力の弱さが逆に重要となるベビーバスケなど、老若男女プレイヤーを選ばない素晴らしいスポーツであった。そして何より、誰もが笑顔になれ、楽しめた。もちろん、スポーツの良さをその競技性に見出す人の割合は小さくない。しかしながら、健康促進のためのスポーツ機会の提供やコミュニティ形成の補助的役割など、ゆるスポーツが持つ将来性は大きいと考えられる。理念にもあるように、今後の世の中には弱者起点の考え方が広まっていくであろう。そんな中、まだ若い参加者一同にとって、この企画が単なるアイスブレイクに留まらない意味を与えられたことを信じ、総括とする。

# HCAPジェンダー

【日時】

第一回 2月18日（日）15:00-17:00（東京カンファレンス外）

第二回 3月11日（日）16:00-18:00（東京カンファレンス２日目）

【場所】

第一回　東京大学駒場キャンパス　コミュニケーションプラザ和館

第二回　東京大学駒場キャンパス　キャンパスプラザ第四会議室

【企画目的】

・第一回　身近なジェンダー平等に関する話題について意見を交換し、日常的な「気遣い」のきっかけとする。短いディスカッション時間とすることで、企画後に話しきれなかった違和感を外部の人と共有する。

・第二回　日本に住む学生とアメリカに住む学生が、身近なジェンダー平等に関する話題について話し合う。

【参加者】

第一回　外部からの参加申込数10名　実際の参加者数5名（内、駒場生は2名）　参加者合計14名

第二回　外部からの参加申込数22名　実際の参加者数9名（内、駒場生は2名）　参加者合計32名

【企画内容】

第一回

自己紹介や企画への参加理由を話し、アイスブレイクとした。グループ毎のディスカッションが主であったが、全体でのクイズなども行った。収入格差や服装の制約、教育格差、セクシャルマイノリティーなどの具体例をあげたのち、関心を最も持つ話題について話し合う時間を設けた。セクシャルマイノリティー向けの設備が整った海外の様子を見て、ジェンダーというものに興味を持ったという参加者や、自己の趣向が世間的には「女性らしい」とみなされ友人から指摘されるという男性の参加者がおり、興味深かった。全員日本語話者であったため、ジェンダー平等に関する英語の表現の紹介をし、日本で身近な「イクメン」や「女子力」といったことばに関するディスカッションを行った。日本語でも用いられるマミートラック（mommy track）を初めて聞いたという参加者も少なからずおり、驚く場面でもあった。『LEAN IN』や「平成27年度雇用均等基本調査」から引用したクイズを踏まえたディスカッションも行った。本企画では敢えてディスカッション時間を短く設定したが、話が盛り上がったところで打ち切られてしまうグループも見られ、第二回に向けての改善点となった。

第二回

第二回も、主には4~6人のグループに分かれて実施した。自己紹介や自由歓談という形でアイスブレイクを行ったのち、結婚相手に求める学歴という話題からアファーマティブアクションまで、東大の男女比という切り口に関連したディスカッションを行った。ハーバード大学は男女比がほぼ一対一であると言われているが、STEMの分野だと男性の方が多い傾向があるということは意外であった。東大の男女比を一対一に近づけるとしたらどのような方策が考えられるかとの話し合いでは、面接のある推薦入試のような試験を増やせば、現在の傾向からすれば女性が増えるのではないかといった意見や、特に数学や理科の現在の教科書は著者が男性であることが多く、男性にわかりやすい書き方になっているのではないかという意見もみられた。企画の最後には、各グループの代表者が話し合ったことを紹介し合う時間を設けた。

【総括】

本企画は、日本で達成されていないものの筆頭としてのジェンダー平等について、ジェンダー平等のより進んでいる環境におかれたハーバード大生と話し合いたいとして企画された。企画を練る過程において、あるメンバーが「夫婦別姓を選択できないことで困りそうな人を目の前にして，考えが変わった」と話したことがあった。広い社会問題として捉えるのではなく、自分や、自分の目の前にいる人の問題として考えることが、ジェンダー平等を達成するために非常に重要であると実感した。そのためこの企画は、身近なことに関して、自分の意見を自分の言葉で伝えることで、参加者に新たな気遣いのきもちがわずかでも芽生えるよう意図した企画となった。

第一回では、身近な話題を重視したため全体の統一感がなかったとの声が見られた。また、敢えて時間を短く設定したことは、単純に話す時間を見誤っていたとの印象を与えていた。勿論、身近な話題について話したため、自分の意見が出てこず参加し難いといった人は見られず、参加者全員がディスカッションを楽しむことをできたように思う。

第二回では、第一回の反省や、ハーバード大生が参加して話し合う機会の活用という観点から、テーマを東大の男女比に絞り、ディスカッション毎の時間を十分に設ける形で企画を実施した。本来の目的に少しでも近づけるため、身近な議題を多く取り入れ、個人的な意見を共有できたと考えている。

最後になるが、企画実施にあたりご支援をいただいた東大駒場友の会様に感謝の意を申し上げたい。

## SDGs in Tokyo

【日時】 3月11日（日）18:00-19:00（２日目）
3月12日（月）10:30-20:00（３日目）

【場所】都庁、東京大学駒場IIキャンパス、大手町・丸の内周辺、築地市場、東京大学本郷キャンパス、お台場

【企画目的】

2015年に国連により発表された世界共通持続可能な開発目標(SDGs)は、世界中の国々の注目を集めた。日本もその国々の一つとして、東京をはじめ、様々な都市で既に絶えずに持続可能な開発を実行してきた。この企画では、カンファレンス参加者がこれまで見たことがない東京の一面を見せ、東京の過去と未来の開発を学び考える。

【企画内容】

3月11日の夜は、夕食後都庁の展望台に向かい、東京における持続可能な開発企画の導入として、東京という都市の全体を観察した。都庁の展望台からは、東京スカイツリー、大手町、六本木ヒルズなどの東京の有名地が眺められ、一同東京の全体的な都市計画、ビルなどの分布と区域によって違う建物の密度などを観察することができた。

3月12日の朝には東京大学駒場IIキャンパスへ移動し、東京大学生産技術研究所元所長の野城智也教授による「Is Tokyo a sustainable city?」をトピックとした講義を受けた。最初は都市の持続可能な開発においての概念と考え方についての説明があり、その後はそれらの概念を使って、江戸時代から今までの東京のサステイナブルシティについて講義が続き、最後に、今後のサステイナブルシティの構築に際する主要な概念「innovation community」についてもお話があった。

昼食の地には築地市場を選び、比較的伝統的な感がある当地でお寿司を楽しんだ。昼食後は東京観光と題して移動を重ねた。まずは大学のメインキャンパスである本郷に連れていき、軽いキャンパスツアーをした。続いては東京においてサステイナブルな取り組みの見える区域として大手町・丸の内に向かい、皇居～東京駅周辺を散歩し、今までの東京の開発の努力の観察を行った。企画の最後には、お台場で夕食を摂りつつ1-2時間ほど散歩を行った。20世紀に実行された東京の持続可能性のために作られたお台場の雰囲気と美しさを体感した。

【総括】

企画導入とした都庁の展望台での夜景の観察から東京の20世紀の持続可能な開発を代表しているお台場での散歩までは、ハーバード生も東大生も全員が自分なりに学べたことが多かったとは言えよう。また、本カンファレンスの目標にもなっている、友好関係を深めることと一緒に楽しむことは勉強とともに果たしたのではないかと思う。当企画中には細かい学問的な内容までは至らなかったが、ある程度、通常の観光で思いつくことができない東京の見方とこの都市のサステイナブルシティを楽しみながら、考えてもらえたと言えるだろう。

# 高校生交流企画

【日時】
3月13日（火）16:00-19:30（４日目）
【場所】
国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟409号室
【参加者】
HCAP Tokyoの東大生12名、ハーバード生11名、高校生約40名
【企画目的】
・高校生がより良い進路選択をできるようにするとともに、将来の展望を考えるきっかけを提供する。
・大学生(HCAP所属の東大生・ハーバード生)も自らの進路選択を振り返り、いまある自分と将来の自分を見つめ直すきっかけを提供する。

【企画内容】
基本的に使用言語は英語で、またどのパートも約１０名程度で構成された７つのグループに分かれて行われた。
1.アイスブレイク
アイスブレイクとして「Big chicken, small kitchen」を楽しんだ。
2.プレゼンテーションとパネルディスカッション
HCAP Tokyo・ハーバード生それぞれから３人、計６人が自らの所属する大学の面白い授業や授業外の生活、教育システムといったテーマについてプレゼンを行ったのちに、パネルディスカッションを行った。参加者から募集した質問を登壇者に投げかけるといった形で進行し、各大学の魅力や事情を知ることができた。

3.グループディスカッション①
テーマは「大学生の高校からの進路生活」。どのような経緯・理由で今の大学を選択したのか、またはするべきか、といったテーマを軸に意見を交わした。
4.グループディスカッション②
テーマは「大学生活のこれから」。キャリア形成という観点から大学を選択する際に役立つと思われるアドバイスをしたり、これからの社会の変化に合わせてどういった人物になるべきかなどを議論した。
5.自由歓談
グループの枠組みを無視して、皆が自由に歓談できる時間。事前配布のドリームシートを読んで見つけた、特定の東大生・ハーバード生に直接話しかける高校生参加者も多かった。

【総括】
全体を通じて確実に言えることは、高校生の熱意というものがひしひしと伝わってくる企画であったということである。ハーバード生や東大生に質問を投げかける高校生たちからは、自分の将来に対する意欲や世界に対する視線というものが十分すぎるほどに伝わってきた。
また我々HCAP Tokyo所属の参加者も、（近年は増加傾向にあるものの）日本では普段なかなかお目にかかることのない海外大学進学希望者と議論をすることで、自らの将来に対する姿勢から、さらには我々の大学の実情といった部分までも再確認できる良い機会となったはずである。これに関してはハーバード大生にとっても同様であろう。
本企画に参加していただいた高校生全員が、自分の納得のいく進路選択を実現することを願うとともに、本企画の開催に多大なるご協力・ご支援をしてくださったRoute H様やGLC様には感謝の意を申し上げます。

# 東京観光

【日時】
3月13日（火）10:00-15:00 / 20:00-22:30（4 日目）
3月15日（木）13:00-20:00（6 日目）
【場所】
東京都内　渋谷・原宿・浅草・築地・本郷・秋葉原・代々木・三鷹
【企画目的】
・ハーバード生に東京の文化的、社会的な価値を理解してもらうこと
・東大生とハーバード生との交流を深めること。

【企画内容】
4、6日目に、東大生とハーバード生をグループ分けし、渋谷・原宿・浅草・築地・代々木・三鷹を訪れた。渋谷・原宿コースでは、ファッションや若者文化の中心でありつつ同時に明治神宮などの歴史的建造物が存在する、ということに対する興味関心を引くことができた。浅草では、浅草寺前のお土産屋で多くの物を見つつ、東京の街中に佇む浅草寺を満喫することができた。本郷キャンパス訪問ではキャンパスの大きさや建物の雰囲気を楽しんだほか、ちょうど行われていた合格者発表掲示板から、日米の入試制度の差異の話に発展することもあった。秋葉原では、日本のオタク文化や電化製品店の嵐を体感してもらうことができた。東京タワーでは、圧倒的な美しさに感嘆の声が上がると同時に、あの建造物が50年以上前に建てられたということに驚きを隠せないハーバード生も多かった。三鷹では三鷹の森ジブリ美術館を訪問し、世界のアニメの先端を走るスタジオジブリの映像作成技術や世界観にすっかり取り憑かれたメンバーが多かった。

また、総じて評判だったのは日本の食文化で、築地では新鮮な魚介類を堪能したほか、都内各所のラーメン屋に行っては舌鼓を打つハーバード生が数多くいた。

【総括】
来日したハーバード生全員にとって、初めて訪れる場所であった、日本。その中心である東京を満喫してもらうため、様々な観光プラン立案を行った。結果、出来上がった東京観光は、彼らをして「十分すぎる」と言わしめた。経済的・社会的・文化的な中心としての東京を満喫してもらえたことを感じている。

また、今回の観光ではただの観光にとどまらない深みを感じることができた。神社の正式な参拝方法などを教えると、日本人の宗教観にまつわる話が展開され、また、本郷キャンパスではお互いの大学の入試制度やキャンパス、環境の違いなどについての話に花を咲かせた。また、思いがけない形で空き時間ができたため、明治神宮で縁石に座り込み、一時間弱ほど東京の魅力からお互いの将来などに至るまで、濃厚な話をすることもできた。こうしたように、観光を通して東京の深い側面やお互いのバックグラウンドに至るまで話をすることができたことで、交流を深めるという目標も達成できた、非常に有意義な企画であったと感じている。

# 田舎体験

【日時】
　3月14日（水）9:30-16:00（5日目）
【場所】
　千葉県富津市相川・梨沢地区
【企画目的】
・地方に残る豊かな自然と人情に触れ、その魅力を体感する。

【企画内容】
　まず、住民の方々の生の生活を感じるべく、築120年の古民家を見学。農村独特の建築様式をはじめとし、関ヶ原の戦いで実際に使用された槍、日本刀などをお見せ頂いた。随所に細かい説明を加えて頂いたおかげで、ハーバード生も非常に関心を持ち、実際に刀身に触れてみるなど、積極的に体験を深めていた。
　次に、畑へ移動し、ジャガイモの作付けを体験した。種芋を自分たちで切るところから始まり、溝を掘り、種芋を等間隔に置き、上から土を被せる。鋤や鍬を手に実際に一連の農作業を行ったことで、より農村の生活を身近に体験できたのではなかろうか。また、土を触るという体験自体も新鮮であったようで、色々と感想が聞かれた。

　その後はメイン企画である、地元、天神山小学校の全校生徒のみなさんとの交流会兼、昼食会に移った。生徒39名、先生方約10名を加え、全体で約90名の大所帯となった。まず始めは、互いに自己紹介ということで、ハーバード生、小学生が簡単な英語を交わした。その後は、けん玉やお手玉、折り紙、大縄跳びなどを通じ、小学生がハーバード生にやり方を教え、共に楽しんでいた。小学生が習った英語を懸命に使おうとする姿や、ハーバード生と共に無邪気に戯れる姿は非常に微笑ましく、また、小学生の適応能力に感銘を受けた。
　続いて昼食へと移った。昼食にはカレー、餅、焼き芋、蕎麦を用意した。カレーは、大鍋で煮たルー、そして竹で作られた飯盒を用いて炊いたお米とあり、非常に美味で皆がおかわりの列を作る程であった。餅に関しては、臼と杵を用い、小学生とハーバード生に餅つきを体験してもらった。杵の重さにふらつく姿なども見られたが、皆総じて貴重な体験を楽しんでいるようであった。
　焼き芋に関しては、暖を取るために会場中心に設けた焚き火を利用する形で行ったが、非常に美味であり好評を博していた。また、蕎麦に関しては、地元有志の方がそば打ちを披露して下さり、皆が環になって見学したが、感嘆の声、シャッター音が鳴り止まない時間となり、満足してもらえたようだった。最後には、小学生の代表の方から感謝のご挨拶を頂き、ハーバード生は感銘を受けた様子であった。
　小学生が帰校した後は、相川・梨沢地区の散策を兼ね、地元の信仰を集める見性寺に徒歩で向かった。見性寺では、賽銭の仕方から、このお寺や相川地区の歴史まで住職様からご説明頂き、見聞を深めた後、座禅体験までさせて頂き、ハーバード生はもちろん東大生も、禅寺における座禅から強い印象を受けた様子だった。
　最後に、協力して頂いた地元の方々との写真撮影を行い、お土産を頂くなど最後まで温かいお心遣いを感じながら帰京した。

【総括】

企画全体を通じ、非常に和気あいあいとした、良い雰囲気が漂っていた。畑仕事や相川散策などを通じ、自然の豊かさを、小学生との交流や地元の方々のお心遣いから、人情の豊かさを感じ取ってもらえたのではないだろうか。帰京後も、多くのハーバード生から、非常に楽しい企画であったというコメントをもらい、企画者としても嬉しいことであった。

「地方創生」という言葉が一人歩きしている、このご時世ではあるが、実際に地方を訪ね、その魅力を肌で感じる一方で、彼らが抱える問題の深刻さを垣間みる、そんな体験の重要性に改めて気づかされた機会でもあった。

最後に、全員の名前を挙げることができないことは非常に心苦しいことではあるが、この企画の立案・実行に全面的に協力下さった相川・梨沢地区の皆様、そしてご理解とご協力を賜った、市長高橋様をはじめとする富津市行政、教育委員会の皆様、天神山小学校の先生方、生徒の方々には深く御礼申し上げたい。

## 貧困サイクル

【日時】
3月15日（木）10:30-12:30（6日目）
【場所】
アメリカンセンターJAPAN
【企画目的】
・先進国における貧困連鎖の現状を知る
・貧困下にある人の視点に立つ体験をする
上記を通じて普段意識することの少ない自国の貧困とその連鎖を再認識し、向き合う

【企画内容】
まず、Wiiゲームを活用したシミュレーションゲームを実施し、貧困の連鎖を再現した。社会一般に、社会的優位に立つものは実力、劣位に立つものは環境を、自身の立ち位置の起因とする傾向がある。本シミュレーションでは、無意識にのめり込んでしまうゲームの特性がうまく生かされ、それぞれの社会的立ち位置にある人々の感情を身を以って体感することができた。

次に、貧困研究の第一人者である阿部彩先生と機会格差削減に取り組んでおられる株式会社ハッシャダイ社員の勝山様より日本の貧困の歴史と現状、改善にむけた取り組みについてご講演いただいた。初めて目にする貧困についてのデータや興味深い事業内容に参加者一同学ぶことも多かったようで、最後の質疑応答の時間には数多くの質問が飛び交っていた。

【総括】
今回の参加者のほとんどは、今までも、恐らくこれからも貧困とは無縁で生きる人々であった。そこで、本企画では貧困問題が他人事ではないのだという意識を参加者にもってもらえるよう、工夫を凝らした。具体的には、シミュレーションを通じて実際に貧困下の立場を体験する、実際に貧困を経験してきた方の話を直接聞く、などのコンテンツが当事者意識醸成に役立ったと考えている。

貧困削減のために何ができるかといった問いは2時間という短時間で答えが出るほど簡単なものではない。しかし、この企画が将来世界のリーダーとなり得るハーバード生や東大生が今一度自国の貧困を認識し、今後この問いに向き合い続ける契機となっていれば、企画を実施した価値はあったと言える。

最後になるが、企画準備にあたり多大なるお力添えをいただいたアメリカセンターJAPANの皆様、企画内でご登壇くださった首都大学東京教授 阿部彩先生、株式会社ハッシャダイ 勝山恵一様に感謝の意を申し上げたい。

# 広島と平和

【日時】
3月15日（木）20:30-21:00（６日目）
3月16日（金）14:00-21:30（７日目）
【場所】
平和記念公園、広島平和記念資料館、おりづるタワー内株式会社ドリーム・アーツ様オフィス
【企画目的】
・広島を訪問し、被爆についての実情と、広島という都市の果たしている役割について学ぶ。
・平和についての各人の価値観や、日米両国の現状を共有する。
・これらを通して、将来の平和に関わる意思決定に影響を与えるような学びと視座を提供する。

【企画内容】
まずは前日（3月15日）の夜に、16日にご講演いただく小倉桂子様を取り上げた30分ほどのドキュメンタリー番組を全員で視聴し、広島訪問への機運を盛り上げるとともに被爆者の方々がどのようにして活動してきたかについて学んだ。

3月16日当日は、午前中を使って東京から新幹線で広島まで移動し、平和公園と平和記念資料館を訪問した。前日に見た番組や、事前に送っていた課題図書などの効果からか、東大生が自発的に公園内の記念碑や原爆ドームなどについて案内と説明をし、ハーバード生からは「どうして原爆ドームは全壊せずに残ったのか」「この川が、原爆投下直後に人々が飛び込んだという川か」などと積極的に質問する姿が見られた。

その後、平和公園に隣接するおりづるタワー内にある株式会社ドリーム・アーツ様のオフィスのスペースに移動し、被爆者である小倉桂子様、広島県知事湯崎英彦様のお話をそれぞれ1時間ほど伺った。小倉様は自らの被爆体験や、戦後の証言活動などについてお話しされた。最後に若者へのメッセージとして口にされた “I saw the evil. I saw the hell. So I want you to be a witness.（私は悪を見た。私は地獄を見た。だから、あなたたちにそれを語り継ぐ証人になってほしい）”や、”War is not a single thing. It has many aspects. （戦争というのは一つのものではない。（そこにいた人の数だけ）たくさんの側面がある）” などの言葉は、参加者の心に強く残ったようだ。

湯崎知事は広島県の平和行政について講義をされたのち、45分間ほど参加者と意見交換を行われた。参加者からは、「安倍政権やトランプ政権の安全保障政策と核政策についてどう思うか」「北朝鮮の核問題をどう考えているか」「オバマ前大統領の訪問の際何を話したのか」など率直な質問が飛び出し、知事も一つ一つ丁寧に答えられ、非常に盛り上がったディスカッションになった。

（上）原爆死没者慰霊碑前での集合写真
（下）小倉桂子様によるご講演の様子

最後に、40分間ほど時間を使って、広島訪問の感想と、どのようなメッセージを持ち帰りたいかという二つのテーマでディスカッションを行なった。特に後者の問いに対しては、「とにかく広島を訪れるように周りの人に伝えたい」という答えや、「言葉で伝えても耳を貸さない人が多いと思うので、あえて写真をたくさん撮った」という答えなど、多様な意見が出てきて興味深かった。

ディスカッションの後はフリータイムとして、会場にお好み焼きの出前をとって夕食とした。いろいろな味のお好み焼きに舌鼓を打ちつつ、夜の平和公園を散歩するもの、企画内容についての感想を話し合うものなど、それぞれのやり方で広島の夜を楽しんでくれたようだ。

【総括】

「ハーバード生を広島に連れて行きたい」という純粋な、しかしとても強い思いから始まったこの企画は、莫大な交通費に見合うだけの内容であることを常に求められ続けた企画でもあった。その中で特に意識したのは、当事者から直接話を聞くことと、将来につながるような企画にすることだった。前者については私たちは被爆証言の第一人者である小倉様と、現役の県知事である湯崎知事に話を伺うという幸運に恵まれた。お二人とも英語に堪能でいらっしゃったため、本人の言葉を直接聞くことができたのも、特にハーバード生には強い印象を残したようだった。後者については、北朝鮮の核実験、オバマ大統領の広島訪問などの「今」の問題と結びつくことで、参加者自らに引きつけた話が各所で見られた。特にディスカッション部分では、国際関係論などについての知識を前提とした議論にならないように議題設定に細心の注意を払った。最終的にあえて「緩い」テーマを設定することで、お互いの価値観や体験を率直に共有できる場となったのではないかと考えている。

また、少ない企画時間を最大限に活用するために、東大生側でも事前勉強を積極的に行ったこと、平和公園に隣接し、設備や景色も素晴らしい株式会社ドリーム・アーツ様のオフィスを使わせていただけたことも企画の成功に大きく寄与したと言えるだろう。

最後になるが、講演者の小倉桂子様、湯崎英彦広島県知事、広島県様、会場を提供してくださった株式会社ドリーム・アーツ様、企画に多大なるご協力をくださった鈴木寛先生（東京大学・慶應大学）、川本隆史先生（国際基督教大学、東京大学名誉教授）、中谷悦子様（広島市原爆被害者の会二世部会会長）に感謝の意を申し上げたい。

（写真）湯崎英彦広島県知事のご講演の様子

## 京都観光

【日時】
3月17日（土）14:00-24:00（8日目）
3月18日（日）10:00-12:00（9日目）※一部のメンバーのみ参加
【場所】
京都市内
【企画目的】
・日本古来の文化が色濃く根付く京都において、東京との比較による日本の古今を感じ、またその文化の魅力に触れる。

【企画内容】
午前中、広島から新幹線移動した一行は、京都駅到着後、荷物を預け金閣寺へ。計2時間半ほどをかけて、金閣寺と、そこからほど近い、町家をそのまま活かしたカフェ金閣庵を楽しんだ。金閣寺では皆写真撮影などに興じ、その新規さに感銘を受けた様子であった。また、カフェ金閣庵も非常に好評を博した。町家独特の雰囲気の中、折り紙をしたり、囲碁に興味を示しルールを習得しようとするハーバード生もいた。町家の中で、日本伝統のぜんざいや、和洋混在の和風ピザ、抹茶トーストなどを食し、非常に満足した様子であった。

その後はバスで錦市場へ。市場が午後6時に閉まるということで、二班に分かれたうち一班は到着が遅れ、見学が叶わず八坂神社へと向かった。市場見学をした班は、小一時間ほどではあるものの、クレープを食べたり、中にはあん肝に挑戦する者も出るなど、非常に充実した時間を過ごしていた。御番菜と言われる京の食文化の中心を見学したことは、京文化の新たな一面を見ることとなり、興味深かったに違いない。

その後二班は合流し、折しも東山全体で行われていたライトアップを楽しんだ。八坂神社から高台寺、二寧坂や三寧坂、清水寺に至るまで、諸処でライトアップが施されており、その美しさに写真を撮る手が止まらない様子であった。一時はあまりの混雑に迷子がでるなど混乱も起きたが、最終的には非常に満足したナイトツアーとなった。

続いて、一行はフェアウェルパーティーに向かった。四条河原町近くのしゃぶしゃぶ店で開催されたパーティーでは、皆が時間を忘れ会話に興じ、最後に東大生から、ハーバード生一人一人に色紙が手渡されると、涙する者も現れ、皆で別れを惜しんだ。気づいた頃には終電の時間となっており、ハーバード生は最後の最後に終電ダッシュの洗礼を受けた。

また、ハーバード生が帰国する最終日、18日の午前中には、飛行機の関係で時間があったメンバーが伏見稲荷を訪れ、こちらも非常に強い印象を受け、満足した様子であった。

【総括】
アカデミック企画が全て終わったこともあり、みな非常にリラックスした様子が印象的であった。実際に観光できた時間は半日にも満たなかったが、東京と京都の違いについて口にするハーバード生も多く、関西圏と関東圏の文化の違いにまで話が及ぶなど、企画の目的は達成されたと言える。京都を再訪したいと願うハーバード生も多く、近い将来また彼らと京都を回る日が来るのかもしれない。

# HCAP 東京カンファレンス 2018 総括

私たちは「多様性」という言葉を軸にして東京カンファレンスを作り上げてきました。12期の各メンバーが初めて出会った時から１～11期までの先輩方とはどこか違うなと感じ、アプリケーション作成のための夏合宿では12期の強みは多様なメンバーが集まっていることであると考えました。そして１～11期とは異なり、敢えて東京カンファレンス全体のテーマを設定することなく、それぞれが自分の趣味や興味・ハーバード生に伝えたいことなどを自由に考え、東京カンファレンスの各企画を作ってきました。その結果として自分・他者との関係などを見直すきっかけとなったと思います。自分という次元においては、自分が本当にしたいことに始まり、結局自分の趣味や興味、他者へと伝えたいことの背景にどんなものがあるのかなどを考え続けました。また他者との関係という次元においては他のメンバーの企画へのフィードバックに始まり、他のメンバーがしたいことの背景にあるものを理解するために自身の思考体系や経験に縛られることなく考えようと努力したように感じます。もちろん「多様性」を重んじたことによって様々な事務処理の効率が落ち、無駄な時間をたくさん生んでしまったことは今後の反省にしなければなりませんが、「多様性」を重んじたからこそ自分・他者との関係などを見直し、自分自身で考えることができたのではないかと思っています。

次にカンファレンス当日に関してですが、目標はハーバード生と関係を深め、そして自分たちも楽しむということでした。今回のカンファレンスではディスカッションよりも観光や体験などの企画が多かったこともあり、ハーバード生との関係においては、ハーバード生が帰国の時に日本にまた来るしボストンにもぜひまたきて欲しいと言っていたことからも達成できたのではないでしょうか。また東大生においても各企画を楽しむことができたと思います。もちろん日程通りに行かないことも多々あり、その際になかなか柔軟に対応することができず、連絡の徹底・理解不足などでさらに予定が狂うなど未熟な部分も多々ありました。しかし東京カンファレンスが終わった時にハーバード大生のみならず東大生も別れへの喪失感とともに満足感も抱いていたため、概ね成功であったと言えると思います。

最後になりますが、自己・他者理解、そしてハーバード生との交流という貴重な体験ができるようにご支援いただきました企業・個人の皆様には厚く御礼申し上げます。

この経験をもとにこれからも努力し続けていくことを誓い、総括の結びとさせていただきます。

HCAP東京大学運営委員会12期副代表
知田直樹

# HCAP 東京カンファレンス 2018 会計報告

（2018年7月1日時点）

## 支出の部

| 項目 | 金額（円） |
|---|---|
| 宿泊費 | 411,580 |
| 食費 | 441,741 |
| 交通費 | 845,842 |
| 企画費 | 267,877 |
| 雑費 | 202,655 |
| 新入生採用活動費 | 101,686 |
| 計 | 2,271,381 |

## 収入の部

| 項目 | | 金額（円） |
|---|---|---|
| 寄付金 | 株式会社ベネッセコーポレーション | 1,500,000 |
| 寄付金 | アメリカ大使館※２ | 630,806 |
| 寄付金 | 東大駒場友の会 | 148,314 |
| 繰越金 | | 635,021 |
| 計 | | 2,914,144 |

※　収支差額は来年度以降の活動に引き継ぎます。

以上



HCAP TOKYO